

第三者意見

立教大学大学院
ビジネスデザイン研究科 教授
立命館大学大学院
経営管理研究科 客員教授
池田 耕一 氏



評価できること

CSR（企業の社会的責任）は多くの主題を包含し各種各様の側面を持つだけに、その取組みとそのレポートは雑多なものが同居する、いわばごった煮の様相を呈しがちです。

「関西電力グループ CSR レポート 2010」は、正反対の状況を示しています。現場の声を取り込みながら約1年半にわたる経営層の議論を経て2010年3月にまとめられた「関西電力グループ長期成長戦略 2030」により、同社におけるCSRは名実ともに事業に統合される第一歩を踏み出したように感じます。CSRを確固たる価値観として基盤に据え、「2030年にありたい姿」として「低炭素社会のメインプレーヤー」などをめざすことが長期成長戦略として確立されました。

この構造的枠組みのもと、CSR実践のために整理された「6つの行動原則」に沿ったグループ全体の取組み状況が具体的かつ明快に紹介されています。また、さまざまな事業所のさまざまな従業員の生の言葉によって、グループ全体の取組みがレベルアップしているようすが生き活きと伝わってきます。「CSR推進の主役は関西電力グループの一人ひとり」とのトップコミットメントが実を結びつつあるといえましょう。

これに加えて、例えば美浜発電所3号機事故再発防止対策に関する協力会社へのアンケート結果が公表されていることなど、電力会社として必須の要件である「安全」の確保に対する経営トップの強い決意の具現化を実感し、信頼感の高まりを覚えます。

要望したいこと

「関西電力グループ長期成長戦略 2030」における確固たる価値観として、「安全文化」、「人を大切に作る経営」、これらをはじめ、社会の一員としての責任を果たす「CSR」の実践がいかなる時代であっても重要である、と明示されたことは大きな意義を持っています。

企業の取組みに有効性と効率性をもたらすPDCAマネジメントシステムにおいて、関西電力グループのP（計画）は構造的に立案され、明確かつ具体的です。今後、D（実行）を推進するに当たっては、再度、C（チェック：言い換えればモニタリングとレビュー）のより一層の活用にご留意ください。企業内外の経営環境の激変のなかでは、CSRのすべての分野のレベルアップを毎年実現できるとは限りません。実態の問題点を発見し、その結果をグループ内で日常的に共有するとともに、CSRレポートなどによってステークホルダーに伝えることが長期にわたる発展につながることはいうまでもありません。

さらに、確固たる価値観とされているCSRについて、シンプルな要素に分解し、それを自らの言葉で表現し、そして、それらの集合体としてまとめられることを期待したいと思います。蛇足ながら、CSRには時代を超えても変わらない「不易」の部分と時代によって変化する「流行」の部分があります。現代はこれまで経験したことのないような大きな変化のなかであり、「流行」の部分に属するCSRの価値観に関してはその都度改定することも肝要です。

ご意見に対して

当社グループは、創業以来、電力の安全・安定供給を通じて、お客さまの生活や産業活動を支え、社会の発展に貢献することをコアの使命として事業を営んでまいりました。今後、世界中が本格的な低炭素社会実現をめざすなか、これまでに経験したことがないような大きな変化の到来が予想されます。このような変化にもグループ一丸となって挑戦し、変わらず使命を果たしつつ生きていきたいと考えます。そのためには、一人ひとりが、社会から求められる期待を自ら考え、それぞれの役割をしっかりと果たすことが必要です。当社グループは、今後も引きつづき、しくみ面の整備に加え、一人ひとりの意識面や組織風土面の取組みを推進していきたいと考えております。

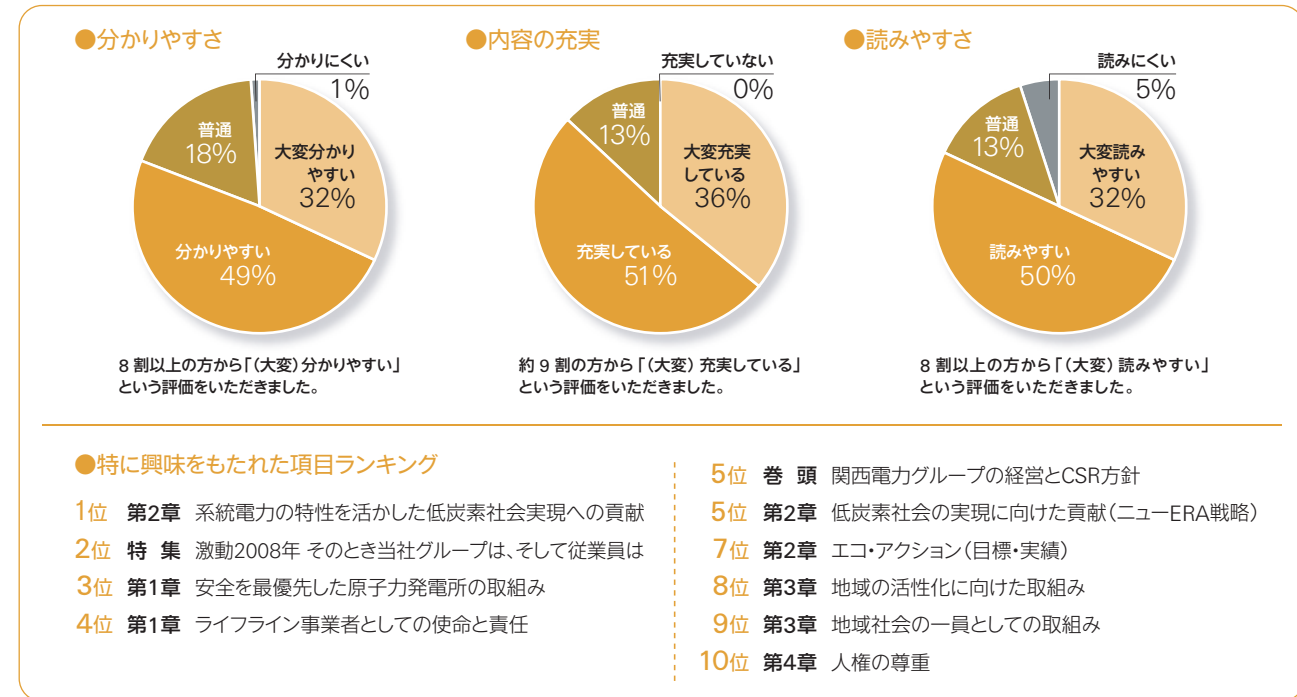


関西電力株式会社
執行役員
CSR、経営・品質管理担当室長
井上 富夫

「関西電力グループCSRレポート2009」アンケート結果

「CSRレポート2009」アンケートに多くのご意見をいただきありがとうございました。私たち関西電力グループは、CSRについての考えや取組みをレポートで報告し、ご意見をいただくことは、ステークホルダーのみならず大切なコミュニケーションの機会であると考えています。アンケートなどを通して、みなさまから寄せいただいた貴重なご意見、ご要望は、事業活動に反映させるとともに、今年度のレポート制作の改善に向け活用させていただきます。

■レポートについての評価



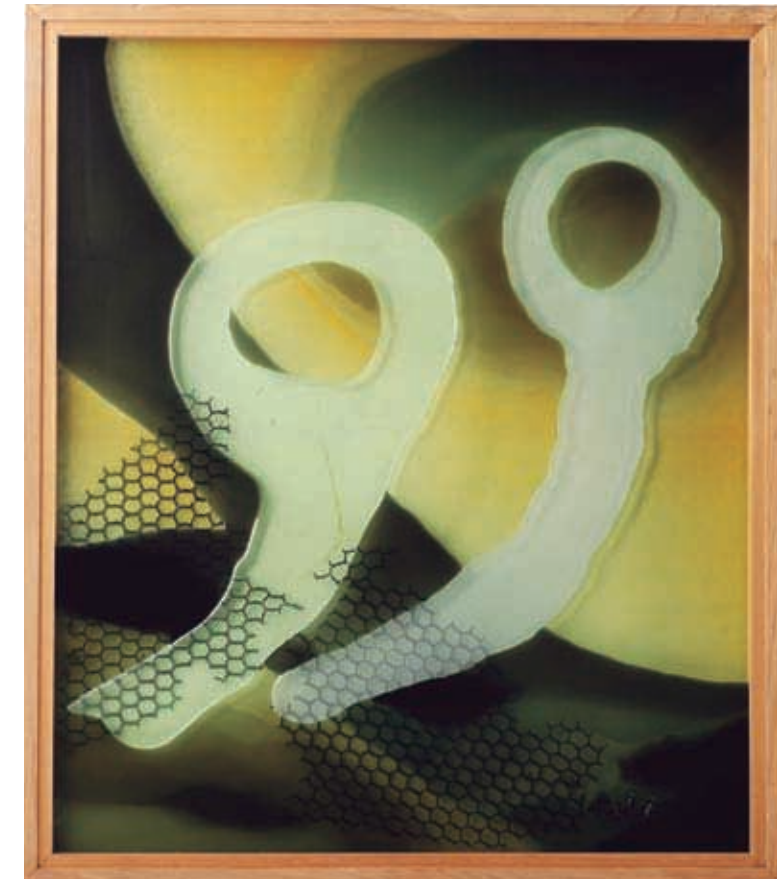
■レポートについての主な改善点 アンケート結果およびいただいたご意見を反映しました

わかりやすさ	<ul style="list-style-type: none"> 取組みの進展が伝わるよう、新しい取組みや大きく進展のあった取組みにマークをつけました。 	<ul style="list-style-type: none"> CSRがすべての経営活動のベースであることを明確にお伝えするため、当社の経営理念から、経営ビジョン、2010年に策定した長期成長戦略までのつながりを図式で掲載し、CSRが確固たる価値観であることを示しました(P13-14)。
内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> 関西電力グループレポートとして、グループ会社の事業活動や、従業員の声について掲載を増やしました。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な低炭素社会の実現に向けた当社の思いと取組みを、特集にて具体的に取り上げました(P7~12)。 次年度の取組みに活かせるよう、専門家の方々から、「評価できること」「要望したいこと」に分けてコメントをいただきました(各章末)。
読みやすさ	<ul style="list-style-type: none"> カラーユニバーサルデザイン(CUD)を導入し、読みやすさの向上を図りました。 	<ul style="list-style-type: none"> とくに文字や数字が多い2章「エコ・アクション(目標・実績)」のページについては、レイアウトを見直し、よりお伝えしたい数値データに絞って掲載しました。従来掲載していました、今後の取組み等の詳細情報は、「環境レポート2010(Web版)」に移行しました。

■当社グループの取組みおよび事業活動に関するご意見と対応

日本がめざすべき低炭素社会の実現に向けた取組みに期待します。	<ul style="list-style-type: none"> 当社グループは、「関西e-エコ戦略」を策定し、電気の需給両面の取組みとそれらをつなぐスマートグリッドの構築を総合的に進め、低炭素社会のメインプレーヤーになるため挑戦していきます(P7~12(特集)、P29-30)。
情報をどんどん発信してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> CSRレポートをはじめ、さまざまな媒体を通じて、当社事業活動について適時的確な情報発信に努め、社会のみならず大切なコミュニケーションを一層推進してまいります。

今後ともみなさまからいただいた評価、ご意見を参考にさせていただき、事業活動のより一層の充実を図っていきたく考えています。また取組み状況については、今後もレポートやホームページなどでご紹介させていただきます。



「ガラスアート 芽生え」作：中井 芳夫 氏
第9回かんでんコラボ・アート21
最優秀賞 本文54ページ参照

寝たきり・車いすでの生活を経験し、現在は自力歩行ができるまで回復しました。その喜びを表したのがこの作品です。2つの新芽は自分と妻のアツコ。2人で協力して「金網=バリア」を乗り越えたことを表現しています。障がい者になったからこそ、この絵を描くことができました。

CSR Report 2010

関西電力グループ CSRレポート

このレポートの内容は、インターネットからもご覧いただけます。

<http://www.kepco.co.jp/corporate/csr/index.html>

また、レポートについてのご意見、お問い合わせは、下記までお願いいたします。

関西電力株式会社 企画室CSR推進グループ

TEL: (06) 7501-0270 (直通)

〒530-8270 大阪市北区中之島3丁目6番16号



環境情報については記載内容の客観的な信頼性を確保するため、第三者機関による審査を受審しています。
審査を受けた結果として、サステナビリティ情報審査協会 (<http://www.j-sus.org/>) の定める「環境報告審査・登録マーク付与基準」を満たしているとして左記のマークの付与が認められました。



本紙は、より多くの人にとってわかりやすいよう色づかいに配慮したデザインであることが、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構によって認定されました。



ミックス品
FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SA-COC-001196
© 1996 Forest Stewardship Council

